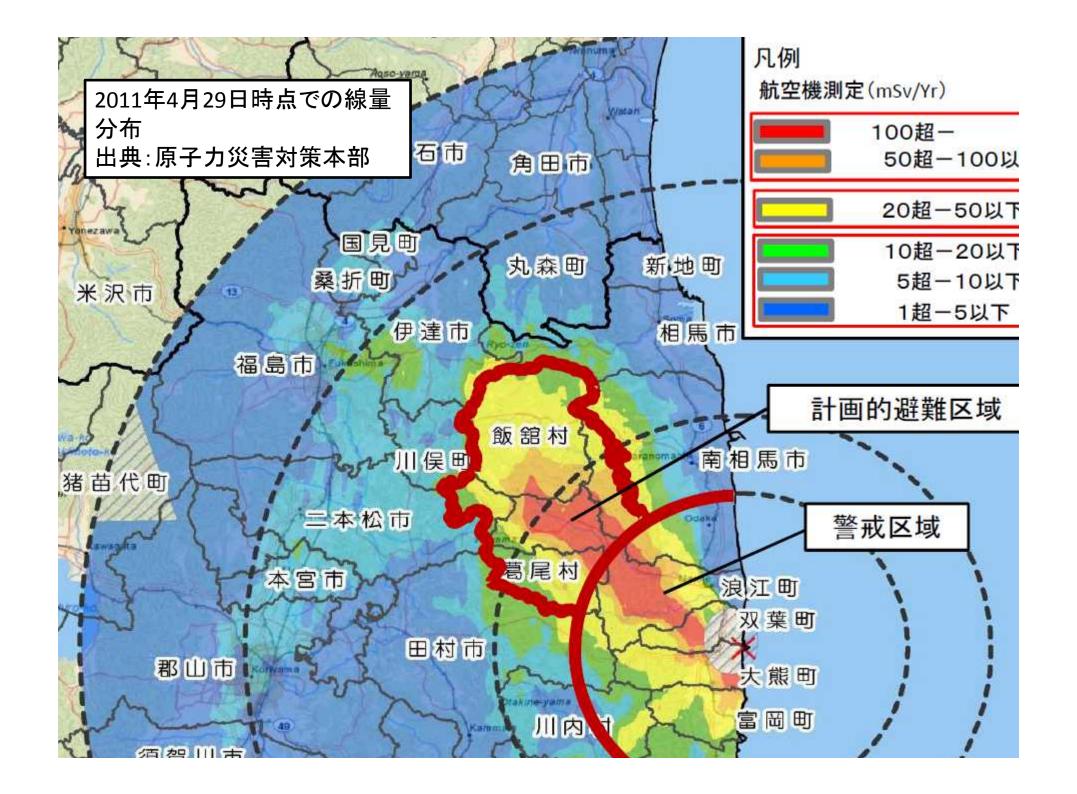
資料3

2013年7月31日

避難指示解除をめぐる情勢

国際環境NGO FoE Japan 満田夏花(みつたかんな)





特定避難勧奨地点

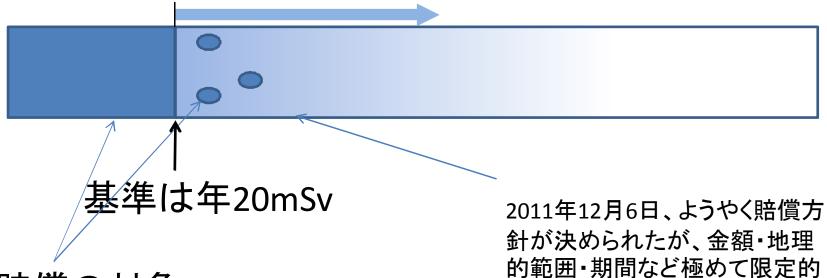
伊達市霊山町小国地区など113世帯

…2011年6月30日 南相馬市原町区など59世 帯

...2011年7月21日 南相馬市追加指定72世帯 ...2011年8月3日 伊達市追加指定15世帯 ...2011年11月25日

年20mSvで区切られた 極端な避難区域の設定

自主的避難を強いられたが、賠償はほとんどなし。



賠償の対象

- ・ 「避難費用(交通費、引つ越し代、宿泊費など)
- 避難が理由の生命・身体的損害
- | 検査費用
- 精神的損害
- ・ 収入の減少、財産の減少 など

同地点に指定せず、

であった。

倉寺両地区の住民説明会が8日、渡利小学校

国は線量調査の結果から両地区を

除染を進める方針を示し

の指定が検討されていた福島市の渡利、

た福島市の渡利、小特定避難勧奨地点

放射線量が比較的高く、

福島2地区説明会

2011.10.9

地点指定せず

線量再計測

の宅地で行った線量調 地区の計1038地点 加した。国は8月に両 シウムが検出されており、 など不満の声が相次いだ。 も線量の高い地点がある。測り直してほしい 住民約450人が参 市民団体の調査では高濃度の放射性セ 地区の隅で避難の意向 点では指定を見送ると もない」として、現時 した。 住民からは「他に 【遠藤孝康】

区で同3・1 召覧を計 査の結果、渡利地区で は両地区の場合、同3 点に指定される基準値 つあったと説明。同地 測した地点が1カ所ず 小倉寺地 地区は約6700世帯 入れない。また、渡利 も設置できず、除染に 決まらないと仮置き場 の汚染土の処分方針が で進めるとしたが、「国 い家屋から除染を急い 福島市は、

毎時328%、

あり、多くの業者を投 入しても除染には数カ 月かかる」とした。 参加者からは「伊達



担当者=福島市の市立渡利小学校で住民を前に除染についての方針などを説明する国の

いるのに、 市や南相馬市では毎時 屋の除染をすればする ようにしてほしい「家 外すのか」 勧奨地点に指定され 声が上がった。 ば危険な地域だ」 る。子供を基準にすれ ほど地表の線量は上が 否を住民に選択できる なぜ渡利を 「避難の可

ないと決めたわけでは 佐藤暁班長は「指定し 対策本部住民支援班の 国の原子力災害現地

は、深夜まで怒りと落胆の声が渦巻いた。

(中山洋子)

動を優先するのか」。八日、市内の渡利地区で開かれた住民説明会で

い」と繰り返すばかりで避難区域の指定に積極的な姿勢を見せない。 レベルの放射能汚染をもたらした。だが国は「除染の結果を待ってほし

福島第一原発の事故は、県庁所在地で住宅が密集する福島市内にも高

補償の見通しがなければ逃げることもできない」「人の命より経済活

東京、 2011. 10.10

指定 進まなし

午前零時まで続いた住民説明会で、不 安を訴える住民たち=8日、福島市で



ちは屋外活動を制限さ 難では 意向が が、国 の家が 安とす 対象上 壬壬 前調本 百人 始まつ 指定 渡利地 七百品 し、避

渡利地区説明会 憤る住民

民説明会。体育館いっぱ た福島市渡利地区の特定 上の住民が、ひっきりな いに詰め掛けた四百人以 避難勧奨地点に関する住 五時間続いた。 八日午後七時に始まっ ちは きた。 染活動 なし 口を子 「特定

ちが知らされたのは四月

を超え ばく組

しに手をあげていた。 地区の高線量を住民た

特定

下旬。その後、子どもた

ツトか

特定避難勧奨地点に指定されても・・・・伊達市小国地区の例

- ・ 指定基準を超えた世帯の近傍で子どもや妊婦がいる世帯の場合は、線量が低くても積極的に指定
- ・ 住民たち:住居単位での指定ではなく、小国地 区の地域指定を求める
- ・ 経済産業大臣に直談判
- ・原子力災害対策本部:測定値のばらつきを理由 に、指定基準を毎時3.2マイクロシーベルトから 毎時3.0マイクロシーベルトに引き下げた。しか し小集落単位指定には応じず

指定の問題点

- ・ 高すぎる基準...年20mSv、毎時3.0~3.2μSv
- ・一方的な指定…住民たちの意見が反映される余地なし
- ・自治体によって、子ども・妊婦基準に差 異。南相馬市:50cm高 2.0μSv/時
- ・福島市ではまったく指定されず
- ・測定の問題…玄関前と庭先の二箇所のみ。 変わりやすい空間線量のみを採用

日本とチェルノブイリの比較

	チェルノブイリ法	日本
義務的避 難 避難指示	5mSv/年以上 土壌中セシウム 555,000Bq/m ² 以上	20mSv/年以上
任意避難	1mSv/年以上 (ゾーンで) 土壌中セシウム 185,000Bq/m ² 以上	20mSv/年以上 (世帯ごと)
内部被ばくの考慮	あり	なし
土壌汚染 基準	あり	なし 9

避難区域の再編

- 避難指示解除準備区域
 - 現在の避難指示区域のうち、年間積算線量 20ミリシーベルト以下となることが確実であることが確認された地域
- 居住制限区域
 - 現在の避難指示区域のうち、現時点からの年間積算線量が20ミリシーベルトを超えるおそれがあり、住民の被ばく線量を低減する観点から引続き避難を継続することを求める地域
- 帰還困難区域
 - 長期間、具体的には5年間を経過してもなお、年間 積算線量が20ミリシーベルトを下回らないおそれ のある、現時点で年間積算線量が50ミリシーベル ト超の地域

市町村 再編日 田村市 2012年4月1日 川内村 4月1日 4月16日 南相無市 飯舘村 7月17日 約800人 楢葉町 8月10日 12月10日 大熊町 11 葛尾村 2013年3月22日 常磐道 富岡町 3月25日 4月1日 浪江町 // 双葉町 5月28日 川俣町 川俣町 未定 飯舘村 (約5,260人) 南相馬IC 南相馬市、 約280人 (約12,740人) 約1,210人 約510人 JR常磐線 2人 1 約3,400人 約120人 (約8,050人) 葛尾村 約8,420人 🥠 浪江町 約70人 約1,320人 約220人 双葉町 約380人 (約6,300人) 田村市 福島第1原発 1 大熊町 約20人 約10,560人 約370人 常磐富岡IC 約1,470人 約9,800人 避難区域からの避難者 (約4,650人) 約83,910人 富岡町 (約60人 - 帰還困難区域 川内村 約25,310人 88福島第2原発 居住制限区域 約300人 約7,600人 約24,490人 楢葉町 太平洋 避難指示解除準備区域 約32,900人 計画的避難区域 約1,210人 広野IC ○ 市役所·町村役場

進む再編

市町村	再編日	3
田村市	2012年	F4月1日
川内村	//	4月1日
南相馬市	//	4月16日
飯館村	//	7月17日
楢葉町	//	8月10日
大熊町	//	12月10日
葛尾村	2013年	F3月22日
富岡町	//	3月25日
浪江町	//	4月1日
双葉町	//	5月28日
川俣町	// 望	8月10日希

出典:福島民友 2013年7月27日付

除染目標は?

- ・除染は思うような効果が出ず
- ・政府は「再除染」はしない方針
 - ・除染目標は、長期的には年1mSv ⇒緩和に向け、検討

5mSv?=実質上、帰還の基準にされてしまうのでは?

除染は進まず・・・被ばく量は自己管理に

陽 1892年3月11日第3種郵便物認可 業斤 享月 り終わったが、住宅地は平が計画した除染作業は一通が計画した除染作業は一通 くても、 る「個人線量」が年1ッを超えないように自己管理し 説明会で、 ながら自宅で暮らす提案をしていたことが分かった。 ト(年1デシーベルト)以下にする目標を達成できな 田村市都路地区は避難指 政府が福島県田村市の除染作業完了後に開いた住民 一人ひとりが線量計を身につけ、実際に浴び 空気中の放射線量を毎時0・23谷シー 福島で政府説明会 希望者 均毎時0・32~0・44谷に をどまり、大半の地点で目 学月23日に住民説明会を一 今月23日に住民説明会を一 ▼3面=住民に責任転嫁 ベル が相次い ■福島県田村市の除染結果 標値まで国が除染すると言 記録によると、住民から「目 っていた」と再除染の要望 朝日新聞が入手した録音 除染後の 平均線量 除染前の平均 除染前の線 量水準と測 '目標値 だが、 定地点数 は0.23 1.0以上 1.24 0.54 383地点 0.75~1.0 1107地点 0.86 0.50 宅地 0.5~0.75 0.62 0.41 2789地点 0.5未満 えないという前提で 時間いた場合に年1 0.42 0.32 2179地点 れ、個人差がある」と 生活して浴びる線量 0・23 公と、実際に 1.0以上 93地点 1.14 0.76 0.75~1.0 565地点 0.60 0.86 $0.5 \sim 0.75$ 0.63 0.48

1654地点

0.5未満

2013年 (平成25年)

@朝日新聞社 2013年

土曜日



朝日新聞東京本社 〒104-8011東京都中央区築地5-3-2 電話03-3545-0131 www.asahi.com

本日の編集長=中島靖

45670号(日刊)

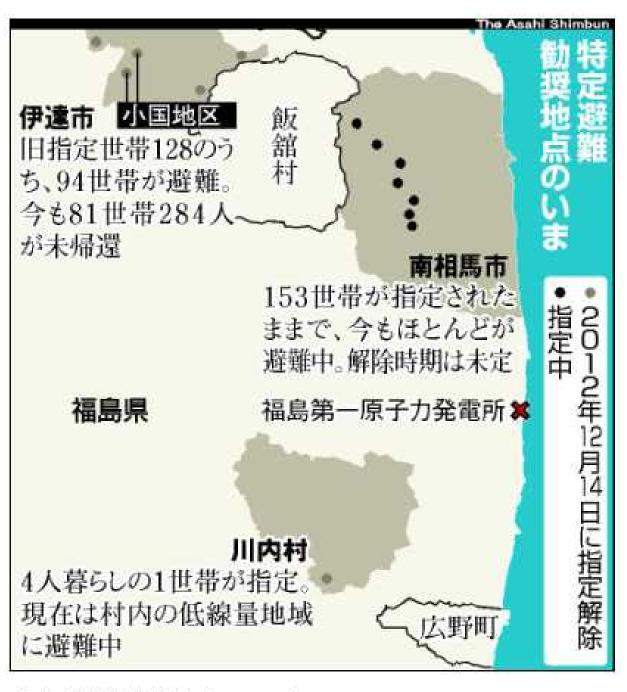
ヤモンドが奏でるニューヨーク



与野党党首、二コ動で討論 安倍政治を問う3

2面

3面



出典:朝日新聞2013年6 月24日 (見つめる)福島・伊達の 小国 避難勧奨解除半年、 戻らぬ家族 東日本大震 災3年目

特定避難勧奨地点のいま

特定避難勧奨地点の解除

- ・「モニタリングを行った結果、当該地点の解除後1年間の積算線量が20mSv以下となることが確実であることを確認」したとして、2012年12月に解除。
- ・ 賠償も2013年3月には打ち切り
- 解除の基準…3.8µSv/時
- ・住民説明会は開かれず

伊達市小国地区から避難されたSさん

「家の敷地内の玄関先、庭先中央の2カ所のみの測定で避難できる権利が決まってしまったのです。たったの2カ所です。住民集会や署名活動、要望書提出等を実施しましたが何一つ住民の意向はきかれることがありませんでした。

. . .

2012年12月14日の朝<u>ネットから流れる情報と日中のニュースから解除を知らされ</u>、動けなくなるくらい驚きました。この日で解除になる。とわかった時点で動き出すという人もいるのではないでしょうか?解除猶予期間もない説明 会・相談会もない。たった1回の除染と測定で高線量の地域に戻されるとはおもいもしなかったです」

(見つめる) 福島・伊達の小国 避難勧奨解除半年、戻らぬ家族 東日本大震災3年目 (朝日新聞2013年6月24日)

… 11年、市内に指定された特定避難勧奨地点128世帯のうち、90世帯が小国地区に集中していた。解除されて半年余りたっても約70世帯が避難中。原発事故前の地区の人口約1300人の2割近く、特に母子が自宅に戻っていない。 …

3月20日。会社員石上政一さん(60)と好子さん(60)の小国の家に久しぶりに家族11人が顔をそろえた。 線量が比較的低い市内の別の地区に避難していた次女夫婦と孫2人が、岩手県北上市への引っ越しを前に、家族で集まり食事をするためだ。

次女一家は長女(7)の小学校進学を機に移住を決めた。 「子どもたちが外で遊ぶ年になったのに、まだ線量が高く て、安心して暮らせないから」。次女夫婦はそう説明した。 . . .

一方、伊達市は勧奨地点の住民の帰還を進めるため、指定の解除を急いだ。指定世帯には東電から1人あたり月額10万円の精神的賠償が支払われ、医療費や介護保険料の減免なども適用されていた。「格差が広がり住民同士の感情の衝突が激しくなれば、復興はますます難しくなると判断した」(市幹部)

市の要請を受け、国は昨年12月、住民説明会も開かず指定の解除に踏み切った。当時はまだ、勧奨地点に指定された住宅のうち12世帯が除染中、10世帯が未着手だった。...

打ち切られる賠償

避難指示等の解除後、「相当期間」が経過したあと、賠償はなくなる

- ・緊急時避難準備区域の場合、2012年8月まで
- ・特定避難勧奨地点の場合、3か月